

学校名	飯豊町立第一小学校	校長名	近 孝
所在地	〒999-0602	TEL	0238-72-2277
	山形県西置賜郡飯豊町大字萩生677番地	FAX	0238-72-2281
担当教諭名	浅田 道夫	e-mail	
取組分野	農業・農村体験学習を通じた「食」と「農」に関する教育活動 学校給食を通じた「食」と「農」に関する教育活動		
取組内容	<p>(1) 活動のテーマ(ねらい) 農園や実習田に作物を栽培する勤労生産的な体験活動を通じて、勤労の尊さや生産することの喜びを体得させるとともに、「食」と「農」を通して地域の方々と児童との交流を推進する。</p> <p>(2) 学年・学級・人数 全校生で実施 1年(28名) 2年(25名) 3年(36名) 4年(35名) 5年(31名) 6年(44名) わかば学級(1名) 合計 200名</p> <p>(3) 開始年度 昭和63年度から</p> <p>(4) 活動の動機 平成5年美しい日本のむらコンテストで、散居集落景観(豊原地区)が農林水産大臣賞を受賞。その中心地に本校が位置する。校区は田畑が広がっていて、恵まれた環境の中で創立当初から稲作や野菜栽培の体験学習が取り入れられていた。その間、本校は昭和63年から2年間、文部省「勤労生産学習」の研究指定、平成11年県教育委員会より「地域の学校づくり」研究委託、平成12年から2年間は文部省より「学校におけるボランティア等活用実践研究」指定をいただき、地域とともに、充実した豊かな体験活動を展開することができた。その延長線上に今日がある。</p> <p>(5) 活動の内容(実施内容等を詳細に) 畑作体験学習 校舎北側のなかよし農園、校舎西側ののびのび農園で、地域のボランティアの方々のご指導をいただいて実施</p> <p>1年生 さつまいも、小玉すいか、枝豆 2年生 さつまいも、とうもろこしポップコーン、じゃがいも 3年生 里いも、キャベツ、ニンジン、オクラ、メロン 4年生 ゴーヤ、メロン、ミニトマト 6年生 プリンスメロン、じゃがいも わかば学級 ミニトマト、トマト、キュウリ、さつまいも、里いも、すいか、トウモロコシ</p> <p>5月に地域のボランティアの方々との打合せ会及び委嘱書を渡して、畑作体験をスタートさせた。途中、水かけや草取り、芽かきの世話など、分担しながら継続してきた。夏から秋にかけては、それぞれの作物の収穫期を迎え、今後、収穫祭を計画実施の予定。</p> <p>米づくり体験学習 校舎西側の1畝の実習田を活用して、5年が地域のボランティアの方々のご指導をいただきながら、米づくり体験に挑戦した。田植え、生育調査、草刈り、稲刈り、脱穀作業など、泥まみれになりながら児童たちは体験をした。現在、稲ぐい8本で自然乾燥している。もち米を栽培したので、11月の親子行事及び1月の友好姉妹都市の千葉県千倉町の児童の歓迎式で、餅つきで歓迎する予定である。(尚、昨年度は児童が笹まきづくりに挑戦し、千倉町へ送っている)</p> <p>収穫を祝う「獅子舞」へ挑戦 学区の萩生地区は「荒獅子の里」としても有名である。児童にしても獅子舞は身近な存在で、大きな興味・関心があり、教育活動に取り入れている。ドデンキ、丁切り、橋わたり、警護がかりと4パターンの動きを地域のボランティアの方々のご指導をいただいて、勇壮に舞うことができる。太鼓や笛のお囃子も入れることができる。今年は町のお祭りや産業祭などで依頼を受けて発表し、好評を得ている。昨年度は県教育フォーラムで獅子舞を発表している。</p>		

休業日の土曜日のほほえみ活動での土に親しむ活動

児童の休業日の土曜日を充実したものにすべく、数年前から本校では、地区公民館や関係団体と協力連携して「ほほえみ活動」を展開している。その活動のメニューの中で、土に親しむ活動を大事にしてきた。昨年度は、「お米のシフォンケーキづくり」「玄米ケーキとチャーハンづくり」を実施し、今年度は本格的に県立置賜農業高等学校飯豊分校の高校生との交流を通して、土に親しむ活動を展開してきた。活動は、米作り、アイガモとの交流、里イモ、スイカ栽培などを実施してきた。高校生との関わりにほほえましい光景があった。

全校生でユリ栽培活動に挑戦

11月、飯豊町の花「ユリ」の栽培に全校生で挑戦する予定。花壇や大きなプランターに球根を植えて来年のユリの開花を待つ。少しでも来訪者にユリの豪華な花を楽しんでもらえれば、と考え、計画している。

(6) 実施体制

畑作体験学習、米づくり体験学習、収穫を祝う「獅子舞」ユリ栽培活動では、地域のボランティアの方々のご指導をいただいた。

休業日の土曜日のほほえみ活動での土に親しむ活動は、地区公民館と高校など、関係団体との協力連携を図っている。

(7) 工夫した点・苦労した点

米づくりや野菜づくりは、有機農業のやり方に着目して実践してきた。その分、世話に大変さもあった。

世話をする時期や日程など、綿密な日程調整を地域のボランティアの先生方と担任が行ってきた。快く引き受けていただけたところに、地域の温かいご理解があった。

農業協同組合、県農業普及課、コメリなどのご理解とご協力をいただいで実施できた。

(8) 協力を得た機関・個人

- ・地域のボランティアとしての畑の先生11名、田の先生3名
- ・県立置賜農業高等学校飯豊分校職員及び生徒
- ・中部地区公民館及び飯豊中学校ボランティア
- ・諏訪神社獅子舞保存会及び本校PTA
- ・山形おきたま農業協同組合
- ・山形県西置賜農業普及課内食農教育活動員

(9) その他(特徴的なこと、例:地域との交流、学年間の交流)

- ・友好姉妹都市の千葉県千倉町の小学校へ冬、雪を贈る
- ・飯豊町立中津川小学校との児童交流
- ・学区の中にある幼稚園、保育園との児童・園児交流、保護者交流、教職員交流

こどもたちの反応

地域のボランティアの方々とのふれあいを楽しみにしている。

土に親しむ機会の少ない児童にとって、意図的・計画的な栽培活動は意欲的である。

有機農業との関連で、カブトエビやアイガモなどの命あるものとのふれあいを深める体験ができた。

収穫を祝う人々の気持ちに迫る意味でも、獅子舞を演技することを楽しみにしていた。

栽培活動を通して、中学生や高校生と触れ合うことができた。

取組の効果

自分たちが生まれ育ったふるさとを理解する上で、田畑を活用しての土に親しむ活動は有意義な教育活動であり、ふるさとの自然、人々、社会や歴史など、愛着を持って理解することができた。それぞれ個々の関係、関わりが深まった。秋の社会奉仕活動でいろいろな地区の公共施設の清掃などに全員、気持ちよい汗を流すことができた。

今後の課題

米づくりでは、稲の生育調査とともに、田の水生生物などに関心を示すような働きをしたい。池のビオトープ構想を推進していきたい。

土に親しむ活動をしている児童の取り組み状況をいろいろと校内、校外に広報活動を展開して、働く喜びや収穫する喜びを具体的に知らせる手立てを考えたい。